

特殊鋼カンパニー



特殊鋼カンパニープレジデント
佐藤 光司

中期経営計画の基本方針

“Specialなハガネ”にこだわり グローバルで成長

モノづくり：“目からウロコ”の実践

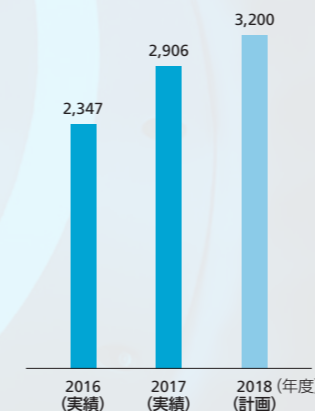
営業力：強みをさらに強く

- 大型投資効果刈り取り

定量目標に対する進捗

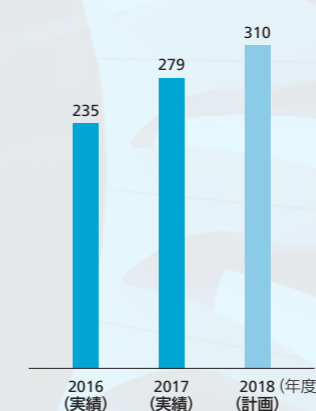
売上収益

(億円)



調整後営業利益

(億円)



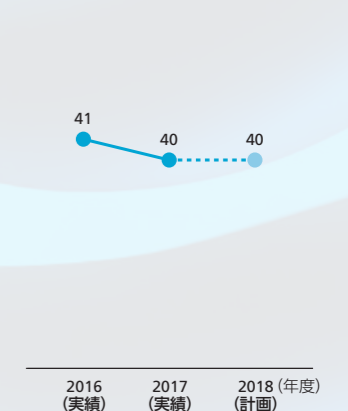
調整後営業利益率

(%)



海外売上比率

(%)



■ 中期経営計画に対する事業の進捗

市場環境と事業状況

環境規制強化や省エネルギーニーズの高まりから、環境親和製品の需要が拡大し、今後も大幅な需要の拡大が期待されます。

その中で2017年度は、工具鋼、産業機器材、電子材料を中心に需要が伸長し、増収増益となりました。この業績は、組織再編の影響を除いても、過去最高レベルにあります。特にリードフレーム材、有機EL部材、クラッド材の需要が大幅に増加しました。また、工具鋼から産業機器材と電子材料への生産枠の融通により、安来工場の限界利益の総和の最大化などの施策が奏功しました。

今後も「変化をチャンスに！」をスローガンに“Specialなハガネ”にこだわり、引き続きモノづくりと営業力の強化、大型設備投資によってグローバルで成長していく考えです。

各事業の概況

工具鋼

グローバルでの成長を掲げ、国や地域に応じた熱処理・加工サービス体制の構築や新製品の開発・拡販を推進しています。安来工場では、1万トンプレス機が稼働を開始し、アルミダイカスト金型大型化への対応力を強化しました。また、新冷間

ダイス鋼SLD-i®をはじめ、新鋼種の生産量も拡大しています。

産業機器材

EV化が進む一方で、内燃機関関連の需要も拡大が見込まれます。2017年度もピストンリング材、CVTベルト材、タービンホイールをはじめとする高性能内燃機関部材の売上が増加しました。今後もこれらの高性能内燃機関部材の売上増加を図るとともに、製品開発や市場開拓によって非内燃機関部材の拡販に取り組み、全産業分野を視野に成長をめざしていきます。

電子材料

2018年4月に株式会社SHカップープロダクツと株式会社日立金属ネオマテリアルとの経営統合を完了させ、電池材料、有機EL部材、スマートフォン部材、半導体部材の供給、販売体制を強化しました。また200億円の増産投資を行っており2019年度上期にかけて段階的に完成します。これらの施策により急拡大する有機EL関連部材をはじめ高機能電子材料をさまざまな用途へ拡販し成長させていきます。

航空機・エネルギー材

安来工場での24トン真空誘導溶解炉(VIM)や高速4面鍛造機、桶川工場(2018年4月日立金属MMCスーパーアロイ株式会社を経営統合して発足)での840トンリングミル、日本エアロフォージ株式会社の5万トン型打鍛造プレスなど3拠点で航

空機・エネルギー材の拡大に向けた大型投資を実行してきました。3拠点のシナジーを発現させ、認定取得・量産を進め、革新技术でグローバルに挑み2025年度売上600億円をめざしていきます。

軟磁性部材

急成長する市場に向け、パワーエレクトロニクスマテリアルノバータへの転換を図っています。具体的には軟磁性部材とセラミックス事業を合わせて拡大するべく、2018年4月にパワーエレクトロニクス事業推進室を発足。市場ニーズのスピードに合わせ、エネルギー高効率化と情報通信の高度化に対応していきます。

外部環境リスク

原材料・副資材の高騰に対しては、副資材も含めてサーチャージ制の適用を開始しました。自動車市場における内燃機関市場の成長鈍化やEV市場の立ち上がり遅延については、非内燃機関事業の規模拡大や3Dプリンター用の粉末事業など新事業の育成を図ります。

内部潜在リスク

溶解能力不足については、需要動向についての検証を行い、

製品ポートフォリオの変更を含め能力増強を検討していきます。また、電子材料などの短ライフサイクル製品への依存は、多角化に取り組むことでリスクを軽減する計画です。

グローバル成長戦略実行により持続的な事業拡大

